

青年教育は青年の手で

三島郡与板町青年会 山田 和男

本文は七面所報の県連合青年団主催「青年問題研究集会」の第四分科会において発表されたものです。

与板青年團といつても、旧太洋村原青年団であります。向田の本年度の活動重点

① 文藝活動 ② 婚礼改善

毎年間違いくらい行われるのは春秋二回の「出と合」程度。役員も三十五才になると五才、参頭んで去つて行く……といった青年団を、グループ活動の盛んな今に育てて行つた立役者の一人です。生活記録の参考になると思われますが、相々として記述されている本文の中から「青年活動」に対する同様の信念も伺われるようです。

私は自分で好んで定期制高校のことを云ふと思われるのですが、改めて

夜間部に入つたのですが、改めて

とか、廻で暖氣が消して授業がで

きなくなると、「あー儲かつた」と云つて喜んだり、「あー儲かつた」と云つて喜んだり、嫌いな学科の先生が廻で引かれて授業がで

きなくなると、「どうな先生の病気が早くなると」「どうなおらぬように……」等

と心ひそかに祈つたり致しました。こんな馬鹿げたような気持

を抱きながら、どうやら年間無を

欠席で卒業して参りました。

この矛盾した学校生活をあり

かえて見ると、私の気持の中に

次のようなものがあつたように思

われるのであります。それは、私が教育の重要性を考

え、その必要を認めて、「やるだけ

ではない」と思つてゐる気持

と、それと共に「興味のない、む

ずかしいものだ」と風うつの氣持

があつて、この気持を同時に抱

きながら、学校生活を送つてお

は走つてしまつた後で考える。

(物の見方と考え方から)と云ふ

と云ふ事だと思います。

であります。が、このようが見方

無理に学ばされた教育

前に「農村生活を良くしよう」と云つて、私達は不合理な生活に慣れ切

われるのであります。

それは、私が教育の重要性を考

え、その必要を認めて、「やるだけ

ではない」と思つてゐる気持

があつて、この気持を同時に抱

きながら、学校生活を送つてお

る

と云つて、想い所が多くあると思ひな

りますが、その時「どの悪い点を

改めたら良いか」と云つて考

みます。が、一般的には歩きなが

りながら、歩きながら、歩きながら、

歩きながら、歩きながら、歩きながら、

歩きながら、歩きながら、歩きながら、

歩きながら、歩きながら、歩きながら、

その嫌つてゐる原因は色々あります。が、一般的に教育というと、原

の嫌つてゐる原因は色々あります。

その嫌つてゐる原因は色々あります。

その嫌つてゐる原因は色々あります。

その嫌つてゐる原因は色々あります。

その嫌つてゐる原因は色々あります。

その嫌つてゐる原因は色々あります。

その嫌つてゐる原因は色々あります。

教育活動も、もつと井戸端のよ

うな要素を持たなければならぬ

と深く反省したのであります。

私たちは、できるだけ、くだけ

た、なごやかな「集い」を計画し

て、なんでも良いから、皆んなの

思い込んでいる事や、人から教

いても分かるなど、団員の感覚を

教育活動をするには、どうして

教育活動をするには、どうして

教育活動をするには、どうして

教育活動をするには、どうして

教育活動をするには、どうして

教育活動をするには、どうして

教育活動をするには、どうして

教育活動をするには、どうして

この文集も、一冊、三冊と発刊回

数を重ねて行く内に、たまたま

の話をして、文化的

の話をして、文化的

の話をして、文化的

の話をして、文化的

の話をして、文化的

の話をして、文化的

こと等が上げられるのですが、

今度は勝つからもう一回やろ

う」と云ふ事になり、自然歌をお

れであります。が、このようが見方

であります。が、このようが見方

青年問題研究会開かる

横山祐吉氏は語る

レポート提出者の都市別状況は

